

保健医療に関する世論調査〈概要〉

令和5年2月

調査実施の概要

1 調査目的

都の保健医療に関する都民の意識や要望等を把握し、「東京都保健医療計画」の次期改定等、今後の保健医療施策の参考とする。

2 調査項目

- | | |
|--------------------|---------------------|
| (1) 医療情報の提供について | (5) 関心のある保健医療問題について |
| (2) 喫煙・受動喫煙について | (6) 行政への要望について |
| (3) 医療機関の受診の仕方について | (7) 在宅医療等について |
| (4) 救急医療について | (8) 心不全患者への緩和ケアについて |

3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数：4,000標本
- (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法：郵送法（郵送送付・郵送回収、WEB〔インターネット〕回答併用）
- (5) 調査期間：令和4年9月2日～10月2日
- (6) 調査実施機関：一般社団法人輿論科学協会

（注）「健康と保健医療に関する世論調査」（平成28年）までは、3,000標本、個別訪問面接聴取法で実施

4 回収結果

- (1) 有効回収標本数（率） 1,846標本（46.2%）〔うち郵送1,157標本、インターネット689標本〕
- (2) 未完了標本数（率） 2,154標本（53.9%）

調査結果の概要

※nは質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。

※個々の比率の合計は、全体の計に一致しないことがある。

※M. A. はいくつでも選択、3M. A. は3つまで選択、5M. A. は5つまで選択

※M. T. は回答の合計をnで割った比率

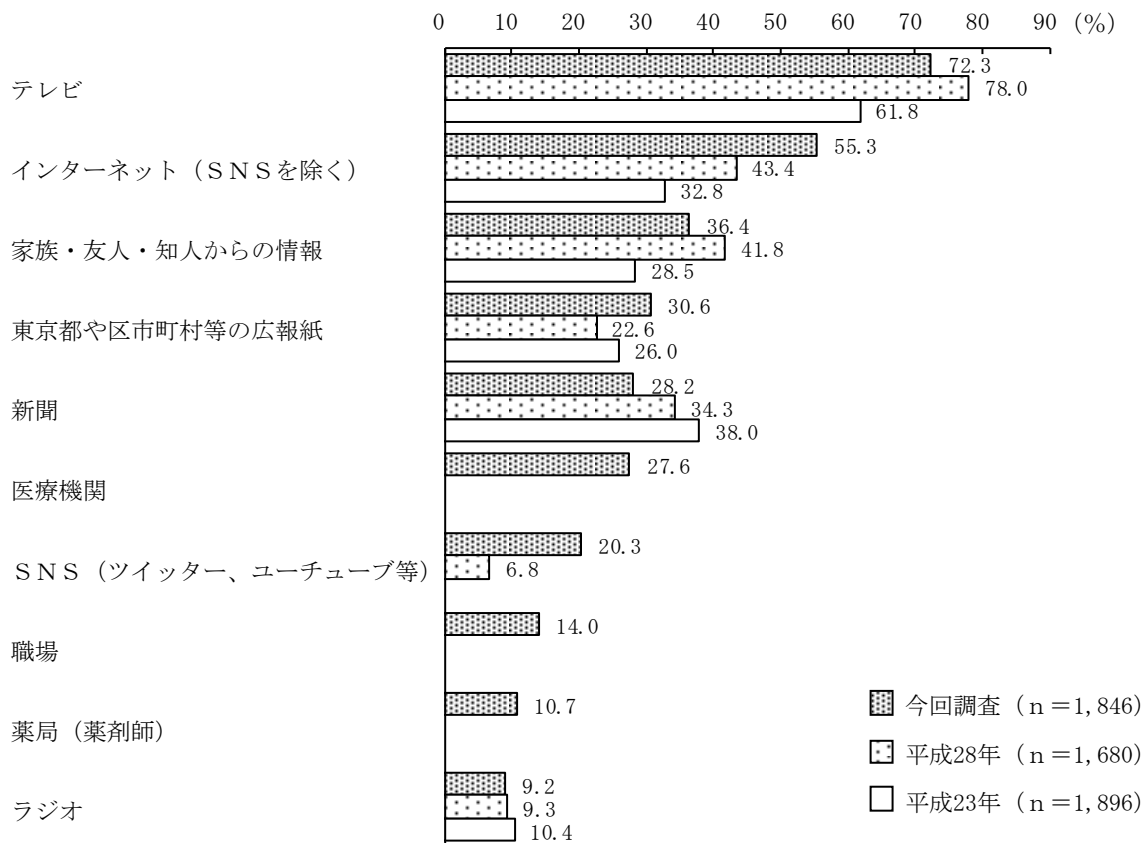
※平成28年までの調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回から郵送法（インターネット回答併用）に変更したため、調査結果を単純に比較することはできないので留意が必要

1 医療情報の提供について

(1) 保健や医療に関する情報の入手方法：日ごろ保健や医療についての情報は何かから得ているか聞いた。(M. A.) (上位10位)

(本文P3～P5)

- ・「テレビ」が72%でトップ（平成28年より6ポイント減少）
- ・「インターネット（SNSを除く）」55%、「家族・友人・知人からの情報」36%が続く



(注1) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」

平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成23年10月調査）」

※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(注2) 「SNS（ツイッター、ユーチューブ等）」は平成28年では「SNS（ツイッター、フェイスブック等）」

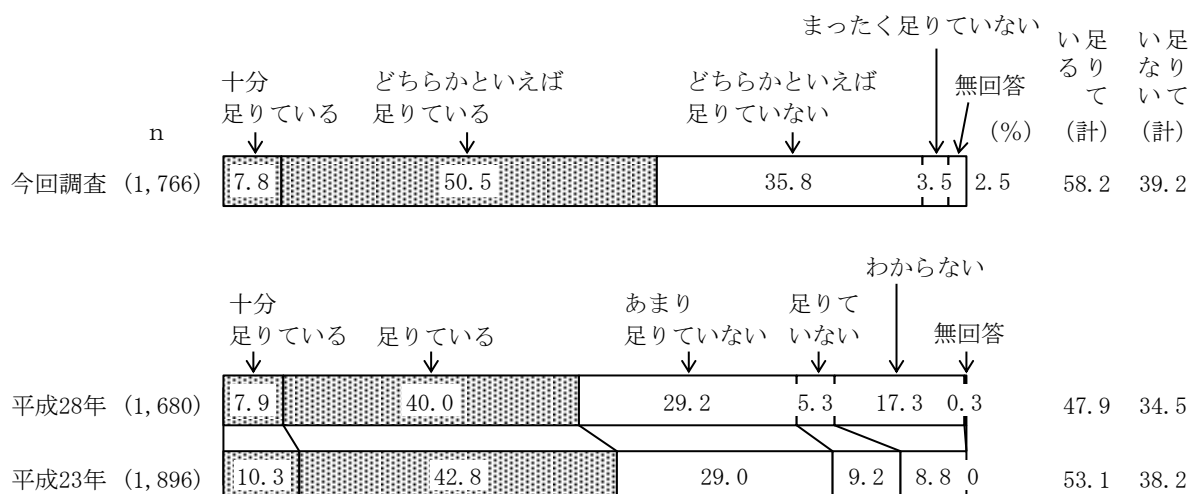
(注3) 「医療機関」「薬局（薬剤師）」「職場」は今回からの選択肢

(2) 保健や医療に関する情報の充足度：日ごろ保健や医療に関する情報を得ていると答えた人

(1,766人)に、保健や医療に関する情報は自分にとって足りていると思うか聞いた。

(本文P6～P8)

- ・『足りている(計)』は58% (平成28年より10ポイント増加)
- ・『足りていない(計)』は39% (平成28年より5ポイント増加)



(注1) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査(平成28年10月調査)」

平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査(平成23年10月調査)」

※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(注2) 平成28年までの選択肢は「十分足りている」「足りている」「あまり足りていない」「足りていない」「わからない」

(注3) 今回調査の『足りている(計)』は「十分足りている」「どちらかといえば足りている」の合計
『足りていない(計)』は「まったく足りていない」「どちらかといえば足りていない」の合計

(注4) 平成28年までの『足りている(計)』は「十分足りている」「足りている」の合計
『足りていない(計)』は「足りていない」「あまり足りていない」の合計

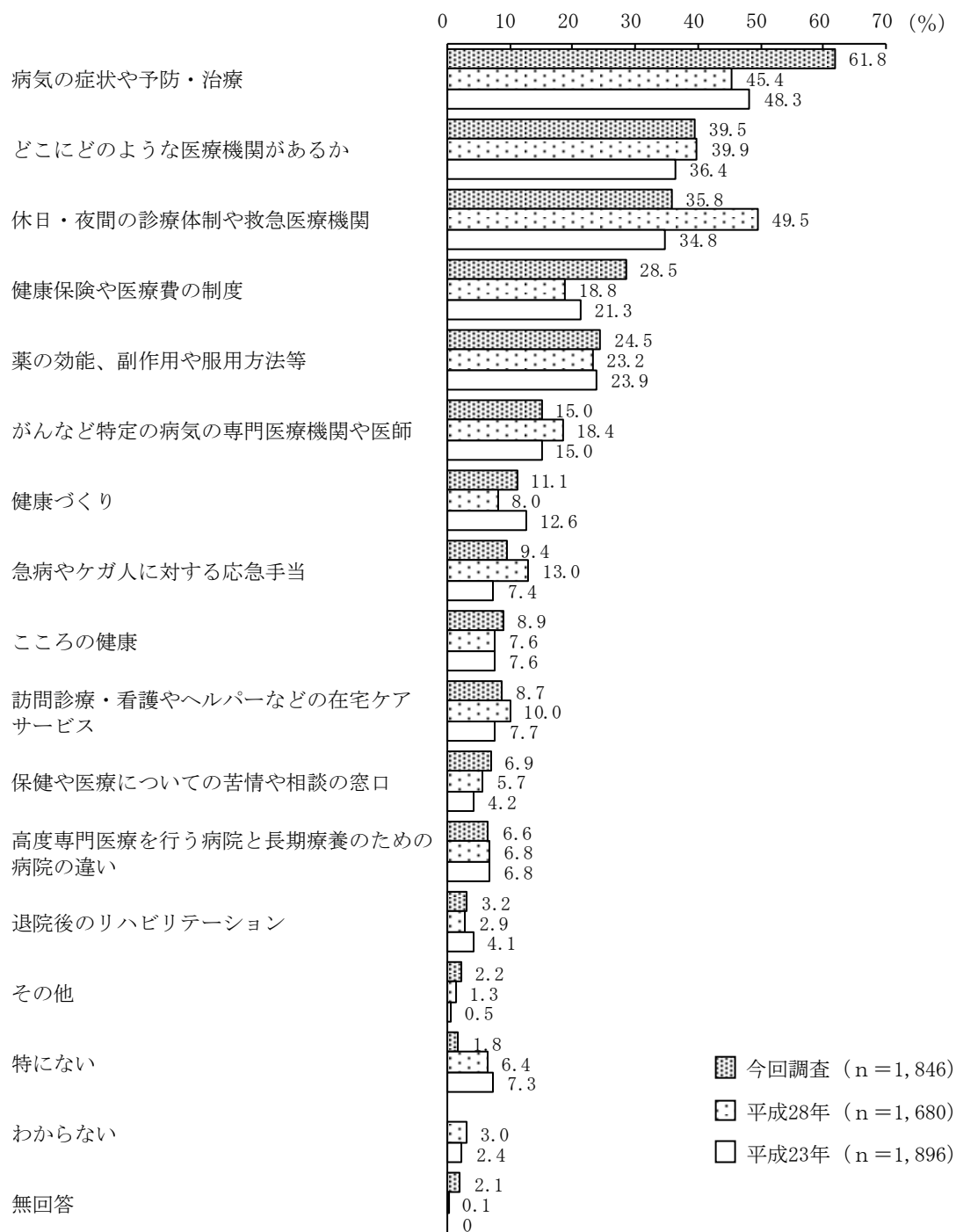
(3) 必要だと思う保健や医療に関する情報：必要だと思う保健医療についての情報は何か聞いた。

(3M. A.)

(本文P9～P11)

・「病気の症状や予防・治療」が62%でトップ（平成28年より16ポイント増加）

・「どこにどのような医療機関があるか」40%、「休日・夜間の診療体制や救急医療機関」36%が続く



(注1) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」

平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成23年10月調査）」

※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

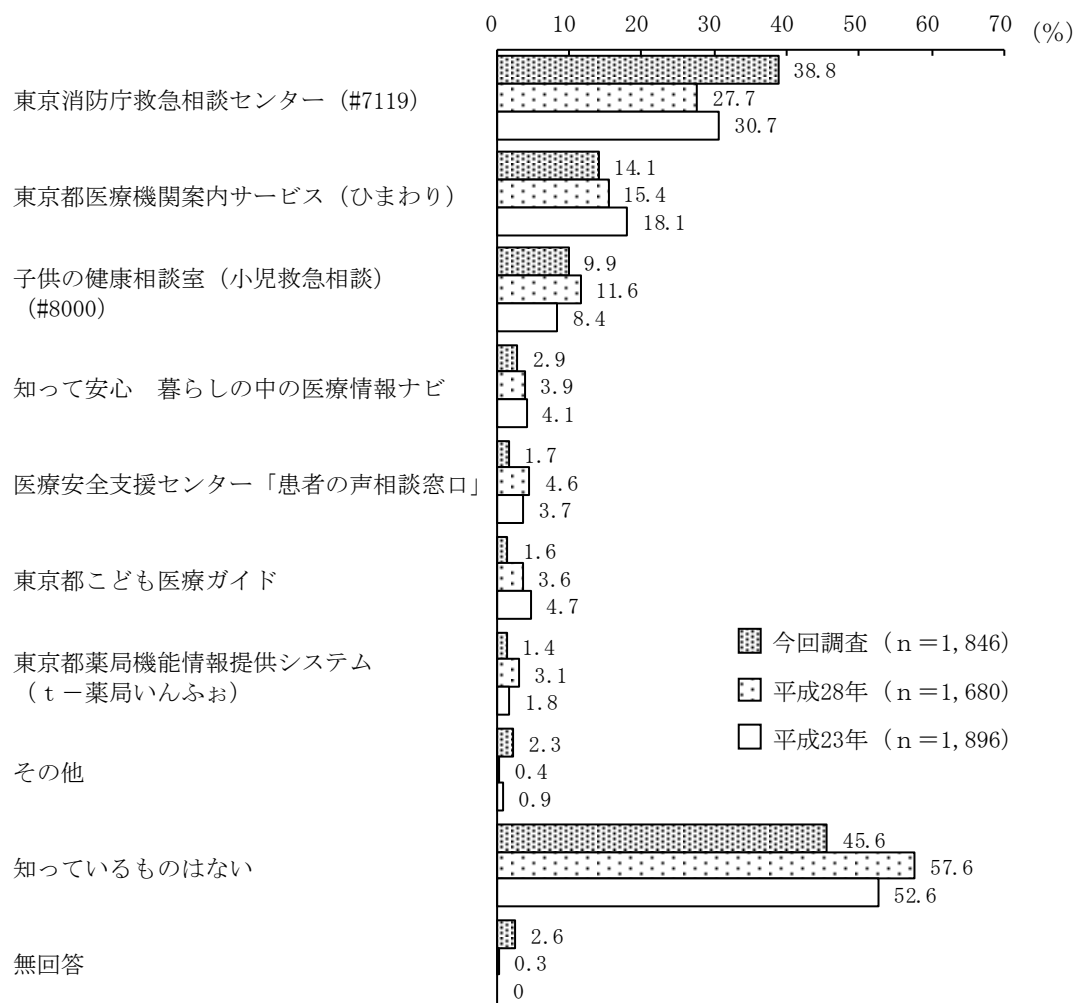
(注2) 「わからない」は平成28年までの選択肢

(4) 医療情報サービスの認知度：医療機関を受診する際の情報入手先や相談窓口、医療に関する情報を得るための公的な情報源として知っているものを聞いた。

(M. A.)

(本文P12～P15)

- ・「東京消防庁救急相談センター（#7119）」が39%でトップ（平成28年より11ポイント増加）
- ・「東京都医療機関案内サービス（ひまわり）」14%、「子供の健康相談室（小児救急相談）（#8000）」10%が続く
- ・「知っているものはない」は46%（平成28年より12ポイント減少）

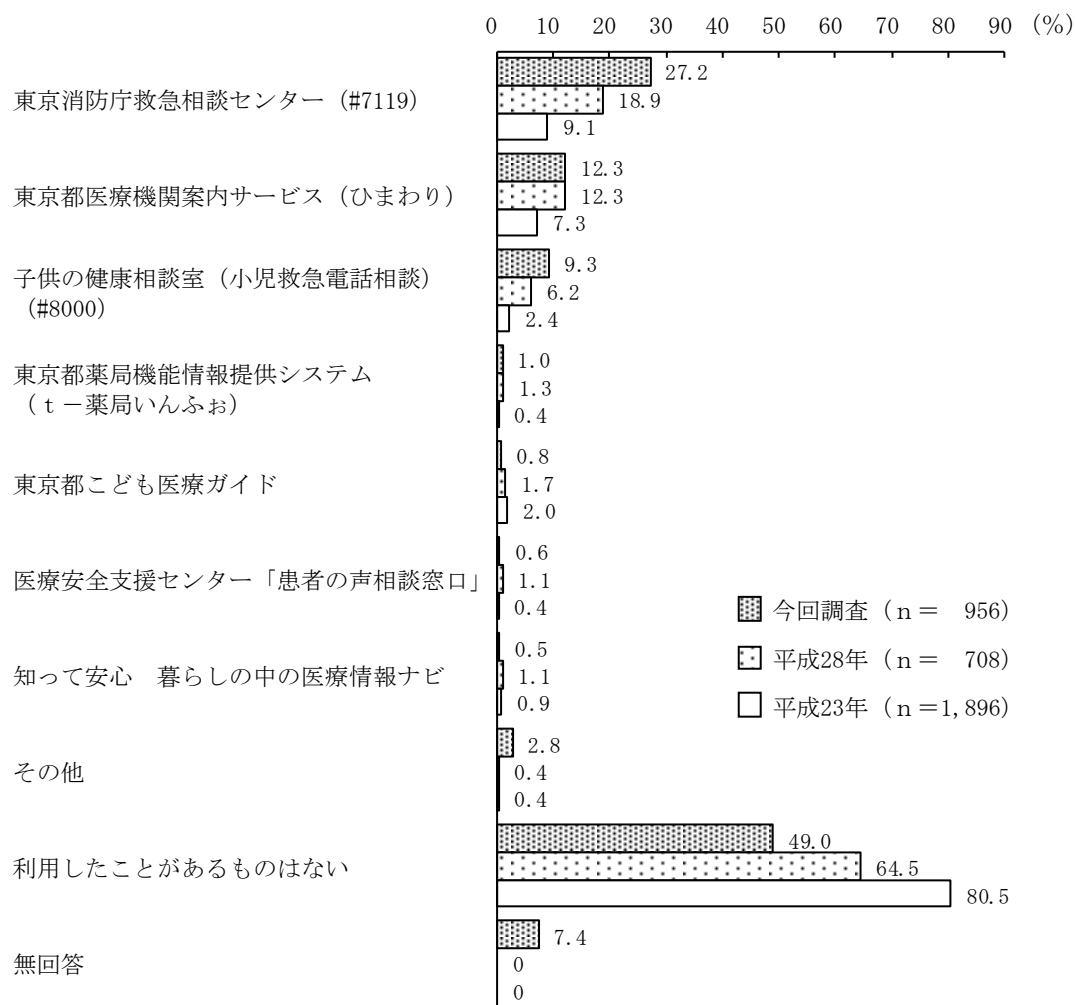


(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」
 平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成23年10月調査）」
 ※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(5) 利用したことがある医療情報サービス：医療に関する情報を得るための公的な情報源として知っているものがあると答えた人（956人）に、利用したことがある医療情報サービスを聞いた。（M. A.）

（本文P16～P18）

- ・「東京消防庁救急相談センター（#7119）」が27%でトップ（平成28年より8ポイント増加）
- ・「東京都医療機関案内サービス（ひまわり）」12%、「子供の健康相談室（小児救急相談）（#8000）」9%が続く
- ・「利用したことがあるものはない」は49%（平成28年より16ポイント減少）



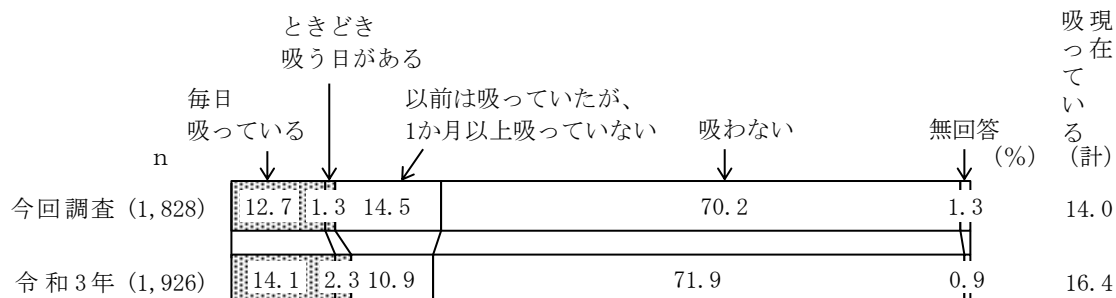
(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」
 平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成23年10月調査）」
 ※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

2 喫煙・受動喫煙について

(1) 喫煙の習慣：20歳以上の人（1,828人）に、喫煙の習慣を聞いた。

（本文P19～P20）

- ・『現在吸っている（計）』は14%（令和3年より2ポイント減少）
- ・「吸わない」は70%



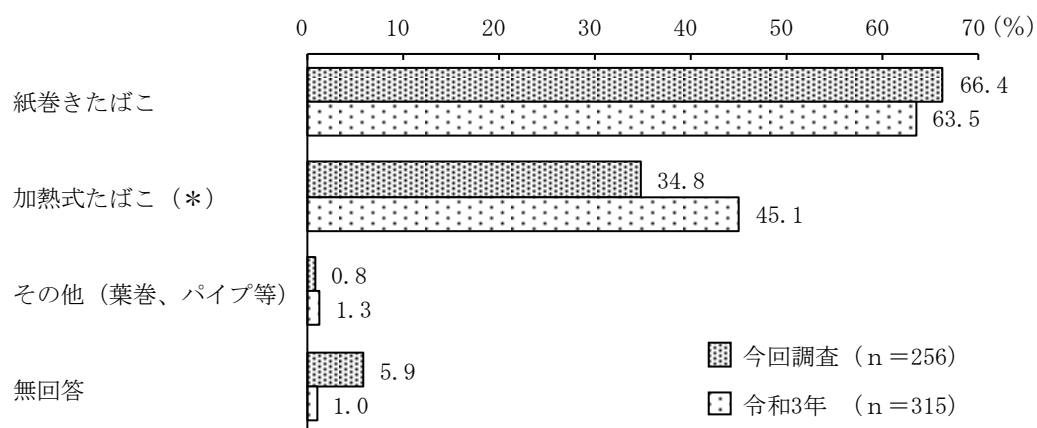
（注1）令和3年は「健康に関する世論調査（令和3年6月調査）」

（注2）『現在吸っている（計）』は「毎日吸っている」「ときどき吸う日がある」の合計

(2) 吸っているたばこの種類：現在、たばこを「毎日吸っている」「ときどき吸う日がある」と答えた人（256人）に、吸っているたばこ製品について聞いた。（M. A.）

（本文P21～P22）

- ・「紙巻きたばこ」が66%でトップ
- ・「加熱式たばこ」35%が続く



*たばこ葉やたばこ葉を用いた加工品を燃焼させず、専用機器を用いて電気加熱することで煙を発生させるもの

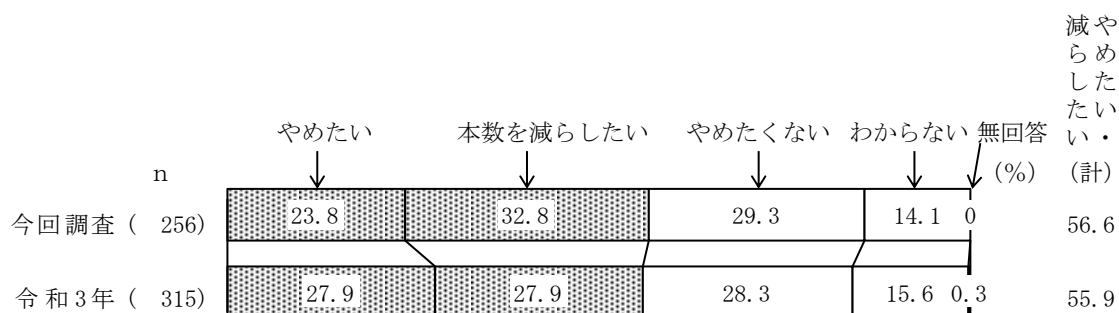
（注）令和3年は「健康に関する世論調査（令和3年6月調査）」

(3) 喫煙習慣見直しの意向：現在、たばこを「毎日吸っている」「ときどき吸う日がある」と答えた人（256人）に、たばこをやめたいと思うかを聞いた。

（本文P23～P24）

・『やめたい・減らしたい（計）』は57%

・「やめたくない」は29%



(注1) 令和3年は「健康に関する世論調査（令和3年6月調査）」

(注2) 『やめたい・減らしたい（計）』は「やめたい」「本数を減らしたい」の合計

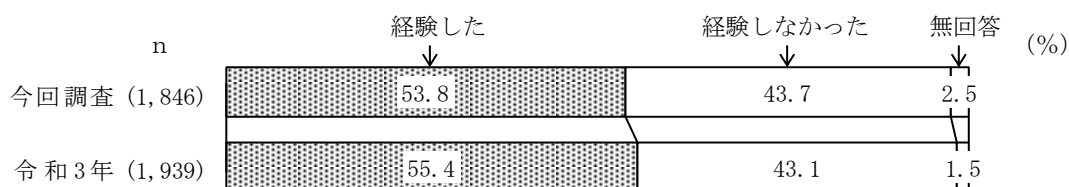
(4) この1年間の受動喫煙経験の有無：この1年間の受動喫煙（*）の経験を聞いた。

（本文P25～P27）

*他人の喫煙により、たばこから発生する煙にさらされること

・「経験した」は54%

・「経験しなかった」は44%

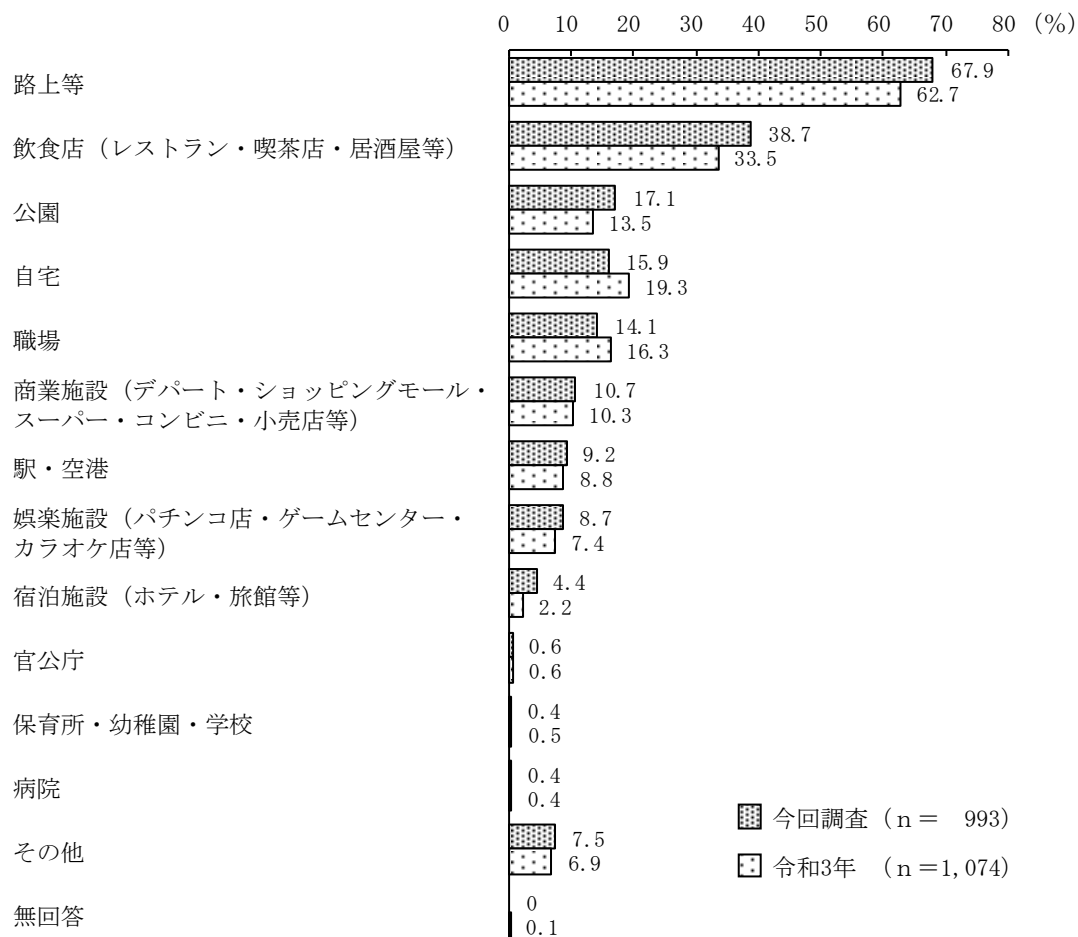


(注) 令和3年は「健康に関する世論調査（令和3年6月調査）」

(5) 受動喫煙を経験した場所：この1年間に受動喫煙を「経験した」と答えた人（993人）に、どこで受動喫煙を経験したか聞いた。（M. A.）

（本文P28～P30）

- ・「路上等」が68%でトップ（令和3年より5ポイント増加）
- ・「飲食店（レストラン・喫茶店・居酒屋等）」39%、「公園」17%が続く



（注）令和3年は「健康に関する世論調査（令和3年6月調査）」

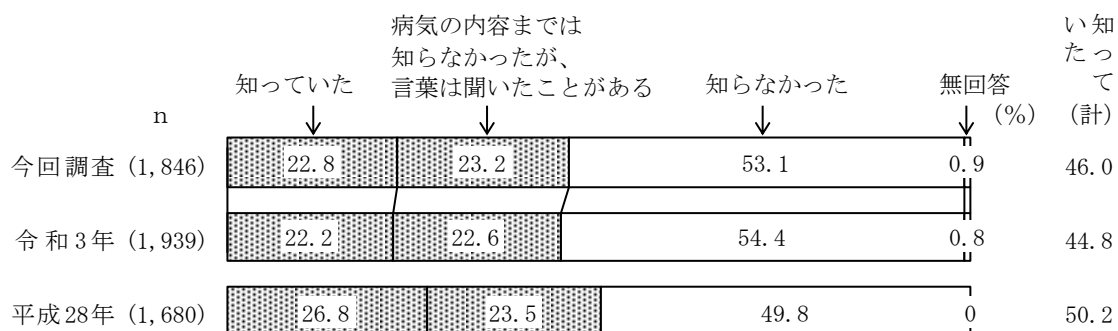
(6)「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」の認知度：慢性閉塞性肺疾患（COPD）（*）を知っているか聞いた。

（本文P31～P33）

*従来、慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称。有毒な粒子やガスを長期間吸うことによって、動いたときに息切れがしたり、慢性的に咳・痰が続いたりするようになる疾患のこと。早期に発見して治療を行えば、病気の進行を遅らせることができるが、重症化すると一日中酸素吸入が必要になることもある。

・『知っていた（計）』は46%

・「知らなかった」は53%



(注1) 令和3年は「健康に関する世論調査（令和3年6月調査）」

平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」

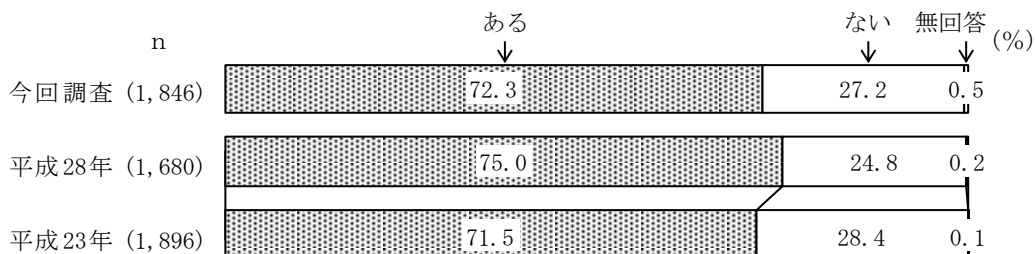
(注2) 『知っていた（計）』は「知っていた」「病気の内容までは知らなかったが、言葉は聞いたことがある」の合計

3 医療機関の受診の仕方について

(1) 過去1年間の医療機関への通院経験：過去1年間の医療機関への通院経験を聞いた。
(新型コロナウイルス感染症に起因するものを除く)

(本文P34)

- ・「ある」は72% (平成28年より3ポイント減少)
- ・「ない」は27%

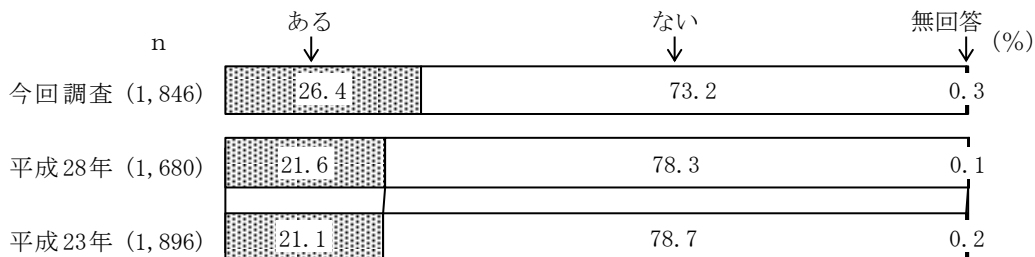


(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査 (平成28年10月調査)」
平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査 (平成23年10月調査)」
※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(2) 過去5年間の医療機関への入院経験：過去5年間の医療機関への入院経験を聞いた。
(新型コロナウイルス感染症に起因するものを除く)

(本文P35)

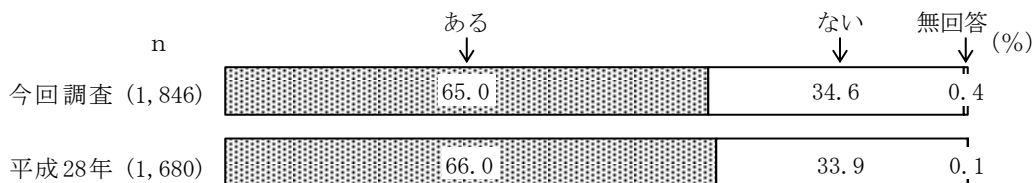
- ・「ある」は26% (平成28年より5ポイント増加)
- ・「ない」は73%



(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査 (平成28年10月調査)」
平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査 (平成23年10月調査)」
※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(3) かかりつけ医の有無：普段からかかりつけている医療機関「かかりつけ医」があるか聞いた。
(本文P36～P37)

- ・「ある」は65%
- ・「ない」は35%

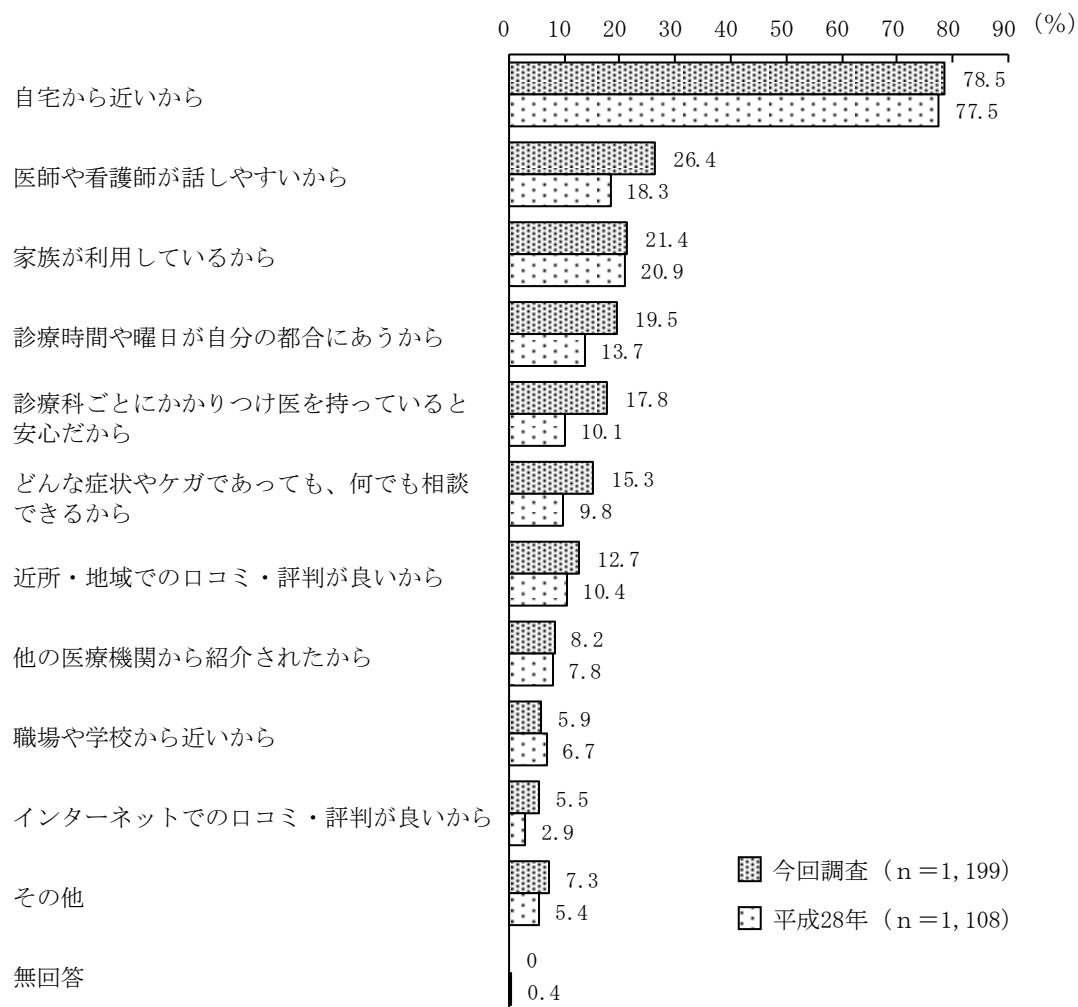


(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査 (平成28年10月調査)」

(4) 今のかかりつけ医を選んだ理由：かかりつけ医が「ある」と答えた人（1,199人）に、今のかかりつけ医を選んだ理由を聞いた。（M. A.）

（本文P38～P40）

- ・「自宅から近いから」が79%でトップ
- ・「医師や看護師が話しやすいから」26%、「家族が利用しているから」21%が続く

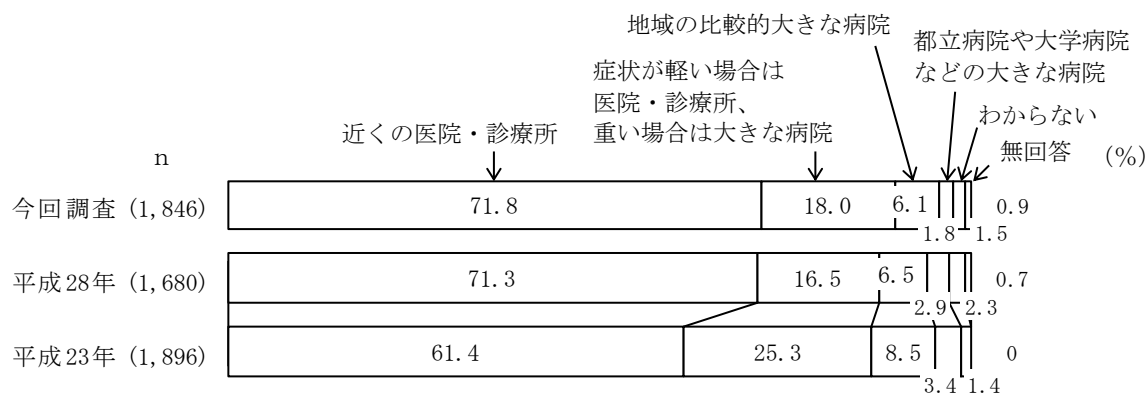


(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」

(5) 最初に受診する医療機関：体の不調などで医療機関にかかる場合に、最初にどの医療機関にかかるかを聞いた。

(本文 P41～P43)

- ・「近くの医院・診療所」が72%でトップ
- ・「症状が軽い場合は医院・診療所、重い場合は大きな病院」18%、「地域の比較的大きな病院」6%が続く

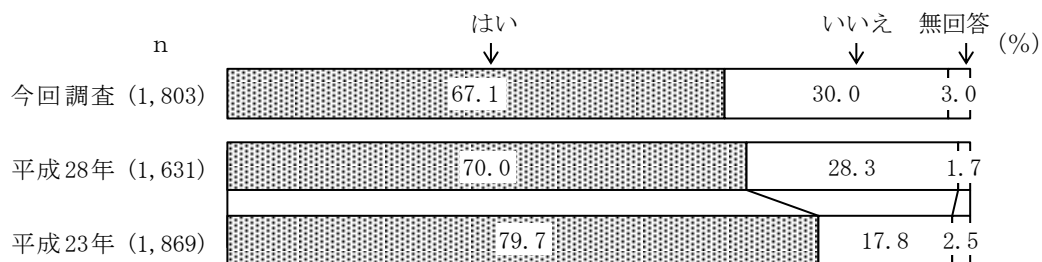


(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」
 平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成23年10月調査）」
 ※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(6) かかりつけの医療機関かどうか：最初に受診する医療機関を「わからない」以外で答えた人（1,803人）に、それはかかりつけの医療機関かどうかを聞いた。

(本文 P44～P47)

- ・「はい」は67%（平成28年より3ポイント減少）
- ・「いいえ」は30%



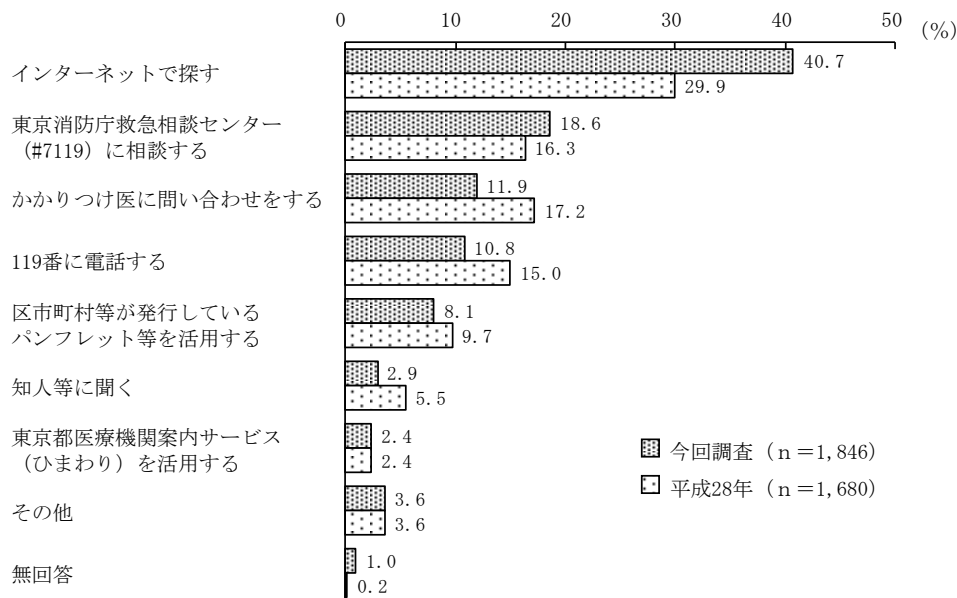
(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」
 平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成23年10月調査）」
 ※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

4 救急医療について

(1) 夜間や休日に医療機関を探す手段：夜間や休日に体調不良となった場合に医療機関を探す手段を聞いた。

(本文 P 48～P 50)

- ・「インターネットで探す」が41%でトップ（平成28年より11ポイント増加）
- ・「東京消防庁救急相談センター（#7119）に相談する」19%、「かかりつけ医に問い合わせをする」12%が続く



(注1) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」

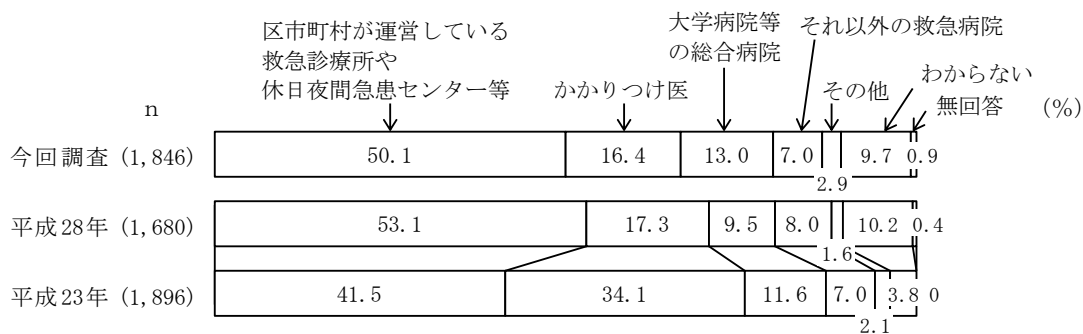
(注2) 平成28年の選択肢「119番をかけて病院を探す」「119番をかけて救急車を呼ぶ」は、今回調査から「119番に電話する」に統合したため、「119番に電話する」の平成28年における調査結果は、統合前の各選択肢の合計値を表示

(注3) 平成28年の調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回から郵送法（インターネット回答併用）に変更したため留意が必要

(2) 夜間や休日に受診したい医療機関：夜間や休日に受診したい医療機関を聞いた。

(本文 P 51～P 53)

- ・「区市町村が運営している救急診療所や休日夜間急患センター等」が50%でトップ
- ・「かかりつけ医」16%、「大学病院等の総合病院」13%が続く



(注1) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成28年10月調査）」

平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成23年10月調査）」

※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(注2) 「かかりつけ医」は平成23年では「かかりつけの医療機関」、「大学病院等の総合病院」は平成28年までは「大学病院等の大病院」

5 関心のある保健医療問題について

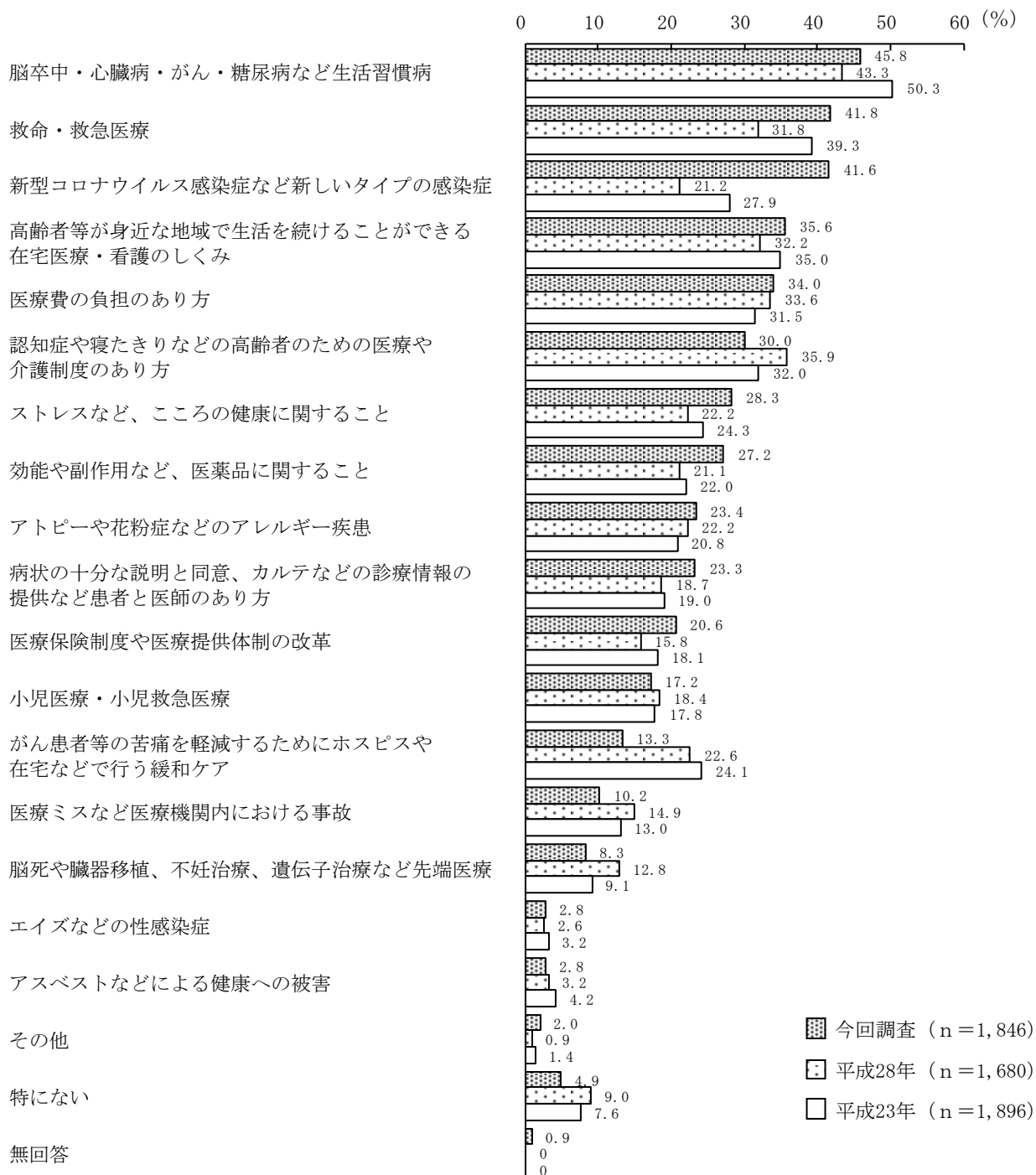
(1) 関心の高い保健医療問題：保健や医療に関することで関心の高いものは何か聞いた。

(M. A.)

(本文 P54～P57)

・「脳卒中・心臓病・がん・糖尿病など生活習慣病」が46%でトップ

・「救命・救急医療」、「新型コロナウイルス感染症など新しいタイプの感染症」がともに42%で続く



(注1) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査(平成28年10月調査)」

平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査(平成23年10月調査)」

※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(注2) 「新型コロナウイルス感染症など新しいタイプの感染症」は平成28年までは「新型インフルエンザなど新しいタイプの感染症」

6 行政への要望について

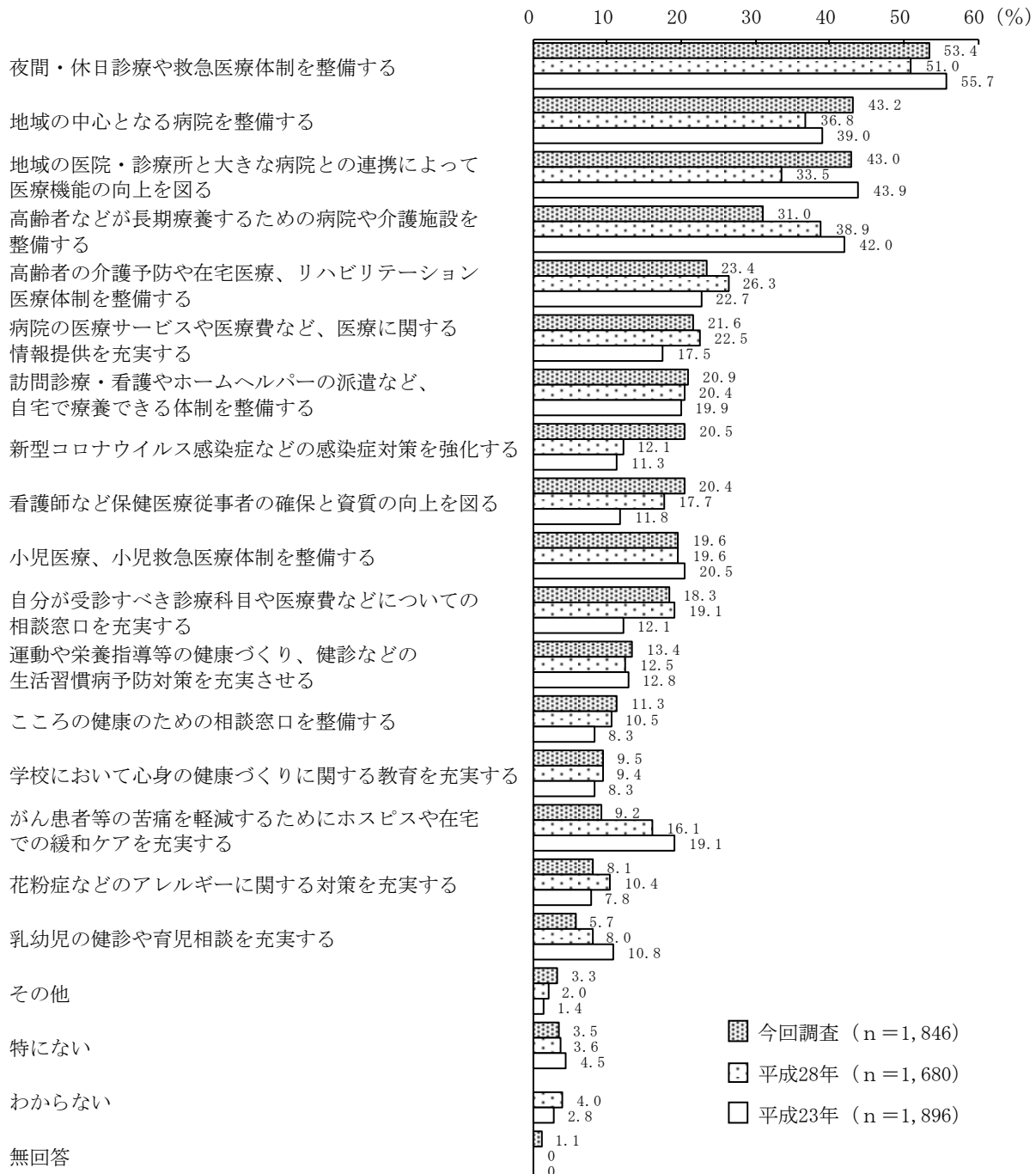
(1) 保健医療対策に関する行政への要望：保健医療対策に関しての行政への要望を聞いた。

(5M. A.)

(本文 P 58～P 61)

・「夜間・休日診療や救急医療体制を整備する」が53%でトップ

・「地域の中心となる病院を整備する」、「地域の医院・診療所と大きな病院との連携によって医療機能の向上を図る」がともに43%で続く



(注1) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査(平成28年10月調査)」

平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査(平成23年10月調査)」

※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(注2) 「新型コロナウイルス感染症などの感染症対策を強化する」は平成28年までは「新型インフルエンザなどの感染症対策を強化する」

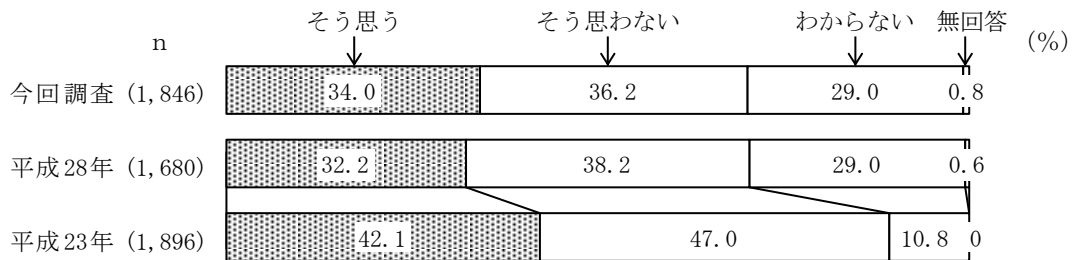
(注3) 「わからない」は平成28年までの選択肢

7 在宅医療等について

(1) 在宅療養の希望の有無：長期の療養が必要になった場合、自宅で療養を続けたいと思うか聞いた。

(本文 P 62～ P 65)

- ・「そう思う」は 34%
- ・「そう思わない」は 36%

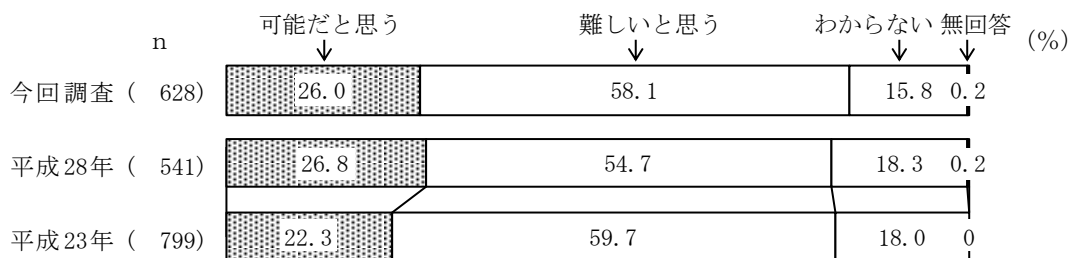


(注) 平成 28 年は「健康と保健医療に関する世論調査 (平成 28 年 10 月調査)」
 平成 23 年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査 (平成 23 年 10 月調査)」
 ※調査対象は平成 28 年調査から 18 歳以上、平成 23 年は 20 歳以上

(2) 在宅療養の実現性：自宅で療養を続けたいと答えた人 (628 人) に、自宅での療養が実現可能か聞いた。

(本文 P 66～ P 68)

- ・「可能だと思う」は 26%
- ・「難しいと思う」は 58% (平成 28 年より 3 ポイント増加)

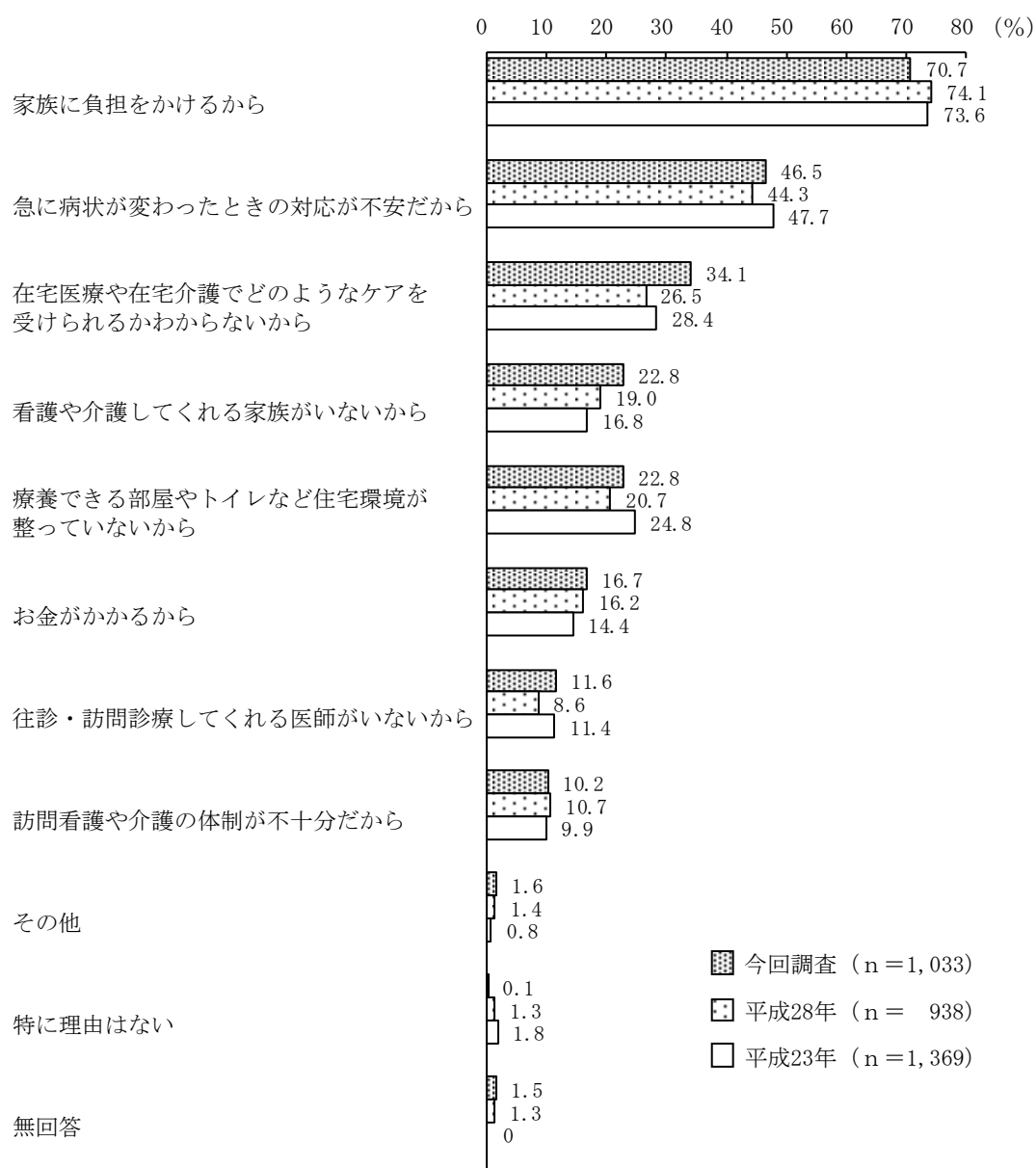


(注) 平成 28 年は「健康と保健医療に関する世論調査 (平成 28 年 10 月調査)」
 平成 23 年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査 (平成 23 年 10 月調査)」
 ※調査対象は平成 28 年調査から 18 歳以上、平成 23 年は 20 歳以上

(3) 在宅療養の実現は難しいと思う理由：自宅で療養を続けたいと思わない人、および在宅療養の「実現は難しいと思う」と答えた人(1,033人)に、その理由を聞いた。(3M. A.)

(本文 P69～P72)

- ・「家族に負担をかけるから」が71%でトップ(平成28年より3ポイント減少)
- ・「急に病状が変わったときの対応が不安だから」47%、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」34%が続く

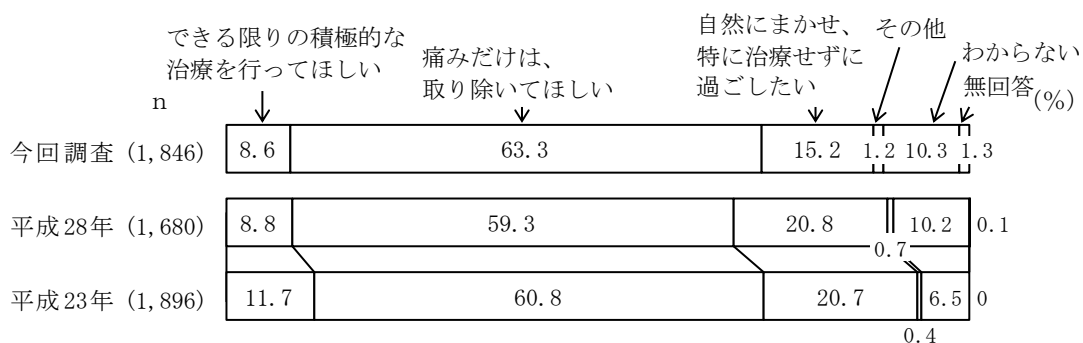


(注) 平成28年は「健康と保健医療に関する世論調査(平成28年10月調査)」
 平成23年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査(平成23年10月調査)」
 ※調査対象は平成28年調査から18歳以上、平成23年は20歳以上

(4) 希望する人生の最終段階における医療：自分の死が近い場合に、どのような治療を望むか聞いた。

(本文 P73～P75)

- ・「痛みだけは、取り除いてほしい」が 63% でトップ（平成 28 年より 4 ポイント増加）
- ・「自然にまかせ、特に治療せずに過ごしたい」15%、「できる限りの積極的な治療を行ってほしい」9%が続く



(注) 平成 28 年は「健康と保健医療に関する世論調査（平成 28 年 10 月調査）」
 平成 23 年は「スポーツ・運動と保健医療に関する世論調査（平成 23 年 10 月調査）」
 ※調査対象は平成 28 年調査から 18 歳以上、平成 23 年は 20 歳以上

8 心不全患者への緩和ケアについて

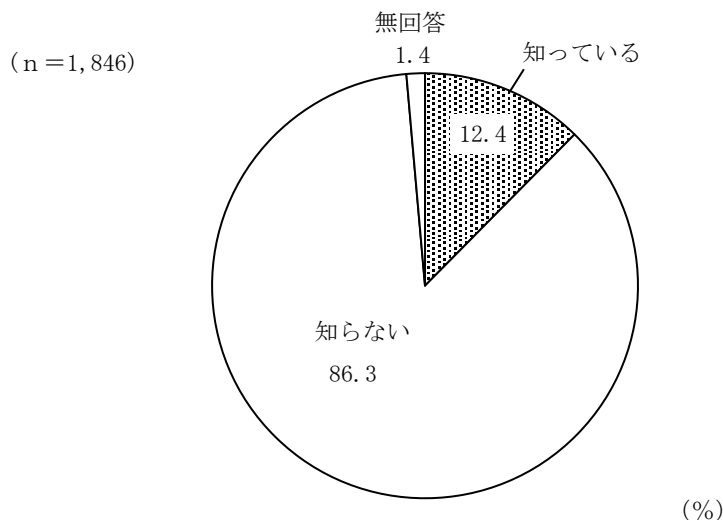
(1) 心不全患者も緩和ケアを受けられることの認知度：心不全（*）患者も緩和ケア（**）を受けられることを知っているか聞いた。

(本文 P76～P77)

* 心臓のポンプ機能が低下した状態をいい、全身の血液の流れが滞ることで、息切れ、胸の痛み、むくみ、全身倦怠感などの様々な症状を引き起こす。

**患者と家族の生活を支えるために、苦痛を身体的にも精神的にも和らげていく医療

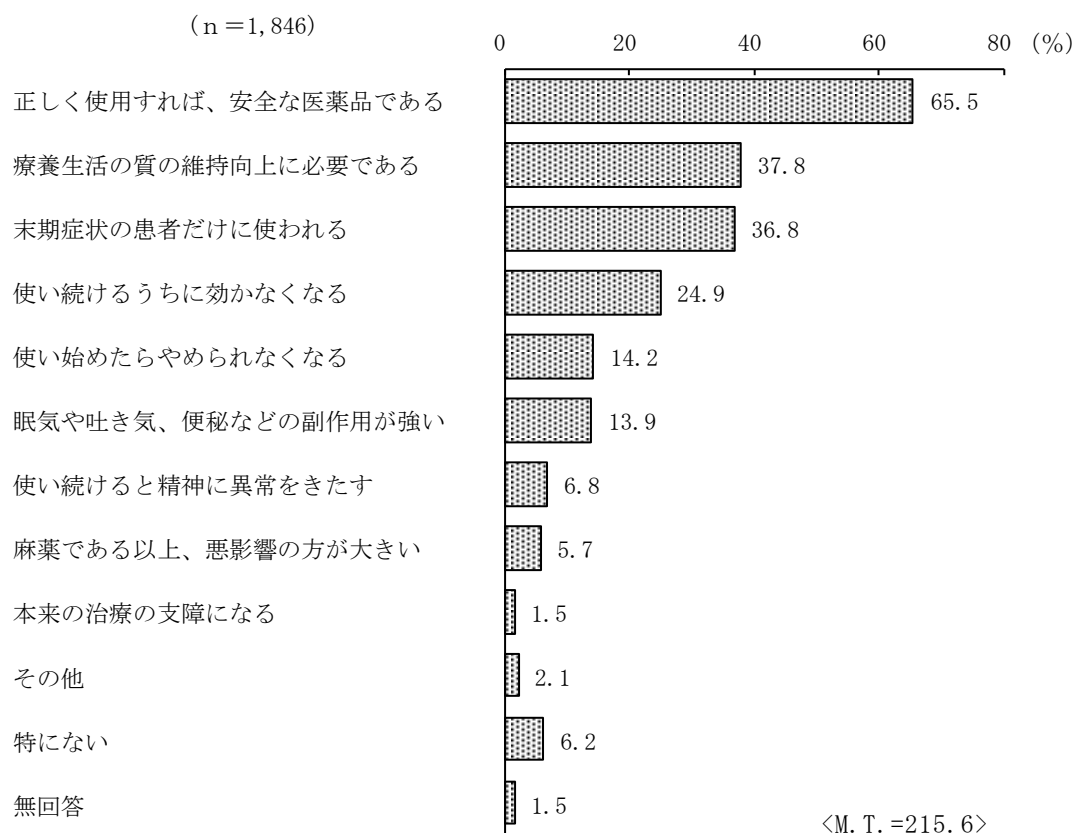
- ・「知っている」は 12%
- ・「知らない」は 86%



(2) 医療用麻薬の印象：医療用麻薬について持っている印象を聞いた。(M. A.)

(本文 P78～P80)

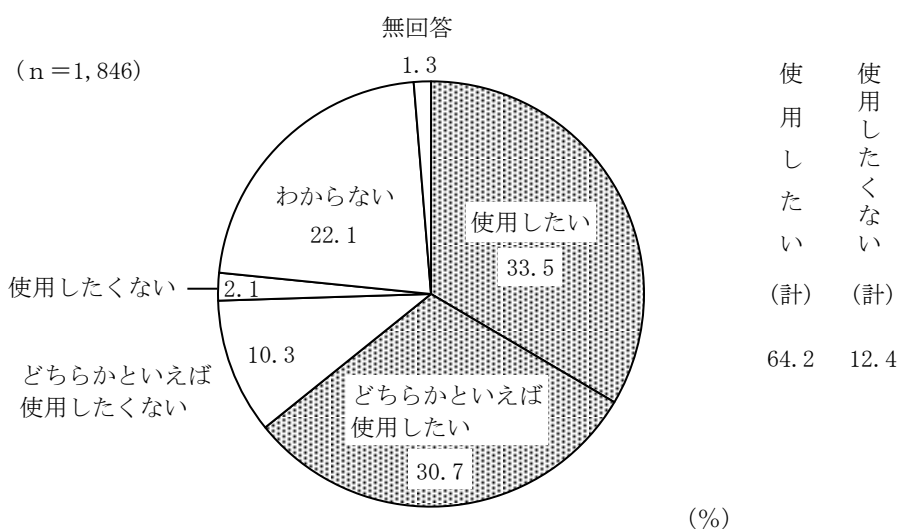
- ・「正しく使用すれば、安全な医薬品である」が66%でトップ
- ・「療養生活の質の維持向上に必要である」38%、「末期症状の患者だけに使われる」37%が続く



(3) 医療用麻薬の使用意向：医師から医療用麻薬の使用を提案された場合、使用したいと思うか聞いた。

(本文 P81～P82)

- ・『使用したい (計)』は64%
- ・『使用したくない (計)』は12%



(注) 『使用したい (計)』は「使用したい」「どちらかといえば使用したい」の合計
『使用したくない (計)』は「使用したくない」「どちらかといえば使用したくない」の合計